



開拓精神

# 柏葉

学ぶ力

健全な心身

豊かな心

広い視点

<https://www16.sapporo-c.ed.jp/kotoni-j/>

札幌市立琴似中学校 学校だより

No.15 令和7年3月14日

## 第78回卒業証書授与式



### 「第78回卒業証書授与式 学校長式辞」

本日は、季節が戻ったかのような天候ですが、厳しかった冬の季節から少しずつ春の日差しを感じる季節になってきました。本日、この良き日に、PTA会長の菅原様、琴似小学校の三浦校長先生、山の手小学校の谷校長先生、山の手南小学校の菅野校長先生をはじめ、評議員の皆様、各関係機関、地域町内会の皆様、PTA役員の皆様方、多くの御来賓や保護者の皆様のご臨席を賜り、第78回卒業式を挙行できますことは、私ども教職員一同、何よりの喜びとするところであります。ありがとうございます。

今、卒業証書を授与されました卒業生の皆さん。卒業おめでとうございます。渡しました卒業証書は、三年間の中学校生活を修了した証であると共に、九年間の義務教育の終わりを告げるものです。立派に成長し、大切な節目となる本日を無事に迎えられたことは、皆さんが一生懸命に努力を重ねたこと、同じように御家族の皆様をはじめ、地域の皆様、先生方、皆さんの周りの沢山の人の支えのお陰でもあります。巣立ちゆく今、お世話になりました方へ感謝の思いを直接伝えてほしいと思います。

さて、今年度の3年生とは、校長室で班ごとに給食を一緒に食べました。丁度、修学旅行の前夜の時期でもあり、修学旅行の話をしたことを覚えています。約20分程の短い時間ではありましたが、一人一人、それぞれの個性が見え、楽しく給食を食べることができたのは、校長である私にとっては、忘れることができない大切な思い出になりました。

また、今年度は、学校祭が琴中フェスティバルから琴中プレゼンテーションへと形が変わり、一年間を三学期制から二学期制になるなど、大きな変化のある年となり、戸惑いが多かったことと思います。しかし、皆さんは、最上級学年として、このような変化を前向きに捉え、全校生徒を引っ張り、新しい琴似中学校の教育課程の形をつくってくれました。

琴似中学校の歴史の中で、大きな変革の節目が、今までの歴史の中でも何度かあり、それを繰り返しながら、今の琴似中学校の伝統や文化ができあがってきました。そういう意味で、今年度は、78年の歴史の中で、節目の年になりました。

皆さんは、大きな変化にも、柔軟に対応し、これからの琴似中学校の基盤を築いてくれました。本当にありがとうございました。

人生100年時代と言われる今日（こんにち）を生きる皆さんは、これからも、楽しい時も、辛い時もあります。どんな困難な状況になったとしても、自分の意志を強くもち、周りの仲間や家族と力を合わせ、夢をもって前へ進んでほしいと思います。

そこで、卒業にあたり、皆さんに、久郷 剛志（くごう つよし）さんという陶芸家の方の話を贈りたいと思います。現在は、岡山県備前市で備前焼の陶芸家として活動している方です。先日、備前市にある久郷さんの釜元をお邪魔し、陶芸家になった理由を尋ねました。小学校4年生の時、テレビのCMで、陶芸家の方が、土を吟味し、コーヒーカップをつくる映像を見たのが、陶芸家への夢をもつきっかけと話してくれました。小学校の卒業文集にも、陶芸家になると書いたそうです。子どもの頃の自分の夢を実現できる人は、それほど多くないと思いますが、久郷さんは、自分の夢を追い続け、実際に夢を実現しました。

実は、久郷さんは、皆さんの先輩で琴似中学校の第36期卒業生です。もう少し久郷さんについて話します。

山の手小学校から琴似中学校に入学し、その後は、札幌西高校に進学しました。そして、高校3年の時に、友人が大学進学を考えて受験勉強しているとき、久郷さんは、自分の夢を実現するために、全国の多くの窯元を見て廻り、最終的に岡山の備前焼にたどりついたようです。釉薬と言われるうわ薬を塗らない、土と煙と灰だけで製作し、陶芸家の熟練の技が問われてくる備前焼に魅力を感じたようです。札幌西高校を卒業した後、そのまま備前焼の窯元に師事し、研鑽を重ね数年後に独立しました。小学校時代の陶芸家になりという「ぼんやりとした夢」が、努力を重ね、自分自身で「はっきりとした夢」へと変えていき、子どもの頃の夢を実現しました。そして、現在も出身地の札幌でも備前焼の個展を開いています。

備前焼は、同じ土で創っても、火の入り方、煙の状態、灰の状態などで、一つ一つ違い、同じものは2つとなく、中には火入で割れてしまうものもある。更には、土の配合の比率、土を寝かす期間、出土する場所による成分の違いがあるため、同一のデザインはうまれず、「無作為の美」をもつ陶器と言われている。「陶芸家になる夢」を実現し、土づくりや火の入れ方などを試行錯誤して、満足する作品をどのように創るのかと、今でも自分の夢を追い続けていると笑顔で話してくれました。

卒業生の皆さんに、陶芸家になった先輩の生き方を紹介しました。

本校の教育理念である「開拓精神」は、琴似の未開の荒野を全力で開拓し、土地を切り拓いた琴似屯田兵の方々の内面の意志の強さを受け継ぎ、「開拓精神」としています。

「意志のあるところに夢が拓けます」

久郷さんのように夢をもち、自分らしさを生かし、「開拓精神」を持ち続け、自分の可能性をさらに拓いてください。卒業してからも、いつまでも琴似中学校の同窓生として応援していきます。

最後になりましたが、保護者の皆様、お子様の御卒業、誠におめでとうございます。心からお慶びを申し上げますと共に、これまでお寄せいただいた皆様方の御支援・御協力に厚く感謝を申し上げます。

さて、卒業生の皆さん、卒業の時がきました。新しい価値に目覚め、出発する気持ちを燃やし、自分の未来へ胸を張り、「夢と誇り」をもち、遅く、歩き出していくことを強く願い、式辞と致します。

令和7年3月14日

札幌市立琴似中学校長 三浦英悟

## 「卒業生 答辞」

校舎の窓から見える手稲山はまだ白い雪に覆われていますが、少しずつ春の香りを感じられる季節となりました。(今朝から降っているなごり雪は私達の卒業を惜しむ気持ちを反映しているかのようです。)

本日は私達 78 期生 248 名のために晴れやかな卒業証書授与式を挙げていただき、誠にありがとうございます。また教職員の皆様をはじめ、ご多忙の中ご臨席くださいました、ご来賓の皆様、保護者の皆様へ、心より御礼申し上げます。

3 年前の 4 月、初めての制服を身にまとい、この体育館に入場してきました。初めて見る仲間の顔と、中学生として過ごしていく日々を胸を膨らませながら、私達の中学校生活は始まりました。他愛もない話に夢中になった時間、同じ目標に向かって切磋琢磨した時間、大成功した喜びを分かち合った時間、数々の思い出には全てに仲間がいました。仲間がいたから中学校生活が最高に楽しかった。仲間がいたから大変な時も辛い時も乗り越えることができた。仲間の存在が私達を強く大きくしてくれました。何度も呼んだ仲間の名前は一生忘れません。仲間に出会えて本当に幸せでした。ありがとう。

在校生の皆さんに初めて出会ったとき、「先輩」と呼ばれることに照れくささとともに嬉しさがありました。その嬉しさは今でも変わりません。何気なく発してくれるその言葉に私達は何度も支えられました。共に笑い培った時間は大切な宝物です。今日まで私達の後輩でいてくれてありがとうございました。挑戦するという経験が皆さんの糧となることを信じています。ずっと応援しています。

毎朝の始まりは、先生方の「おはよう」という明るい声でした。そんな声にいつも元気をもらっていました。そして挑戦する私達をいつも親身になって応援してくださり、何かを成し遂げた時にはたくさん褒めてくださいました。先生方がかけてくださった言葉に私達は何度も救われました。そして行事ではより楽しいものにしようとたくさんの準備をして、中学校生活を更に思い出深いものにしてくださいました。本当にありがとうございました。

思春期に入り、自分の気持ちを素直に表現できない私達を一番近くで支えてくれた、お父さん、お母さん。今まで育ててくれて本当にありがとうございました。あんなに小さかった私がかこまで大きくなりました。大変な思いもたくさんさせてしまったと思います。だけど、一番の味方でいてくれて、私以上に喜んでくれて、励ましてくれて、感謝の気持ちでいっぱいです。これからも強くて凛々しい大人になれるよう、一步ずつではありますが、大切に歩んでいきますので、ずっと見守っててください。

初めて真剣に向き合った自分の進路。納得のいくまで自分と向き合うことが出来たからこそ選択した道に胸を張って進んでいくと決意することができました。

私達はこれから別々の入り口に立ち、夢に向かって自分の足で歩んでいきます。努力をしても報われるとは限らない。でも努力をしなければ報われることはない。だからこれからも自分に厳しく邁進していきます。琴似中学校で得た仲間との思い出、学びを糧とし、今日旅立ちます。選んだ道を自分で正解にしていく。その道に誇りをもてるように。

最後になりますが、琴似中学校の更なるご発展と皆様方のご健康を心より祈念して、答辞とさせていただきます。

令和 7 年 3 月 14 日

卒業生代表

## 🌸🌸🌸 9組卒業を祝う会 🌸🌸🌸

2 月 28 日(金)に「9組卒業を祝う会」が行われました。1・2 年生からは、3 年生へ心を込めたメッセージと記念品を送りました。3 年間の行事をスライドで振り返る発表もあり、3 年生の立派な姿を見ることができました。3 年生は、保護者や後輩へのメッセージや高校にむけての決意を発表しました。9 組の保護者や教職員、学生ボランティアの方々に見守られながら、温かな雰囲気の中、3 年生を送ることができました。

